



慶應四年
 諸國の官軍五海道へ渡りし
 先づ幕府 天朝を護りし故
 先づ中山谷々々 王の
 志を成し 折々幕府
 追討の長仰出されし一番手は西郷
 吉之助なりしと各々進んで
 東海道川崎宿陣所と設けし
 り然し徳川氏のみを討て
 勝氏西郷氏と師弟あり故に
 徳川氏の断絶を成し則ち
 同野上り懇説し進めし
 志と違ふ西郷も其勇勤
 王第一等ありし如何なる賊の第
 一等ありしやと天下の人之と
 悲しむる也
 松月自
 松月記

二勇之義説

村田新八

徳川勝安房守

山内羊左衛門

参謀西郷吉之助

別府新助

船山半次郎

船山失一郎

横濱三吉堂地
出展辻岡文助

松月自
松月記





山内半左衛門

參謀西郷吉之助
盛隆後

別府新助

軍艦
後堀野
中村半次郎



軍艦
永山失一郎

振來于玉香地
著出早川總之助
横前三丁目香地
出枝入辻岡文助
御宿明堂壬月天





村田新八

二勇之義説

慶應四辰年
参謀板垣退助

德川臣勝安房守

諸國の官軍五海道に満々あり
 先づ幕府 天朝を蔑せし故
 先年中山各々勤 王の
 志を尽し折々幕府
 追討の後仰出され一番手は西郷
 吉之助を以てし各勇に進んで
 東海道川崎駅宿陣所と設けし
 り然るに徳川氏のふれを歎きて
 勝氏ハ西郷氏と師弟あり故
 徳川家の断絶をうしむ則ち
 同駅に至り懇説し追くその
 志と達せし西郷も其頃勤
 王第一等ありしが如何なる賊の第
 一等とありしやと天下の人之を
 悲しむるん

松月育
松山記





參謀竹條原國幹

大山格之助

大總督有搦川宮

參謀山縣柱介

參謀大久保一截

軍艦奥平鏡助

參謀前原一誠



松山 松月鏡誠

